

ガリバー×慶應義塾大学 次世代自動車の共同開発プロジェクト発足

～実用化に向けた研究用のコンパクトカーを寄贈～

株式会社ガリバーインターナショナル

株式会社ガリバーインターナショナル(本社:東京都千代田区、代表取締役会長 羽鳥兼市、以下「ガリバー」と慶應義塾大学 電気自動車研究室(代表 環境情報学部 教授 清水浩、以下「慶應義塾大学」)は、次世代電気自動車の実用化を目的とした共同開発プロジェクトを発足しました。

プロジェクト発足に先立ち、ガリバーは電気自動車の実用化に向けた研究用のコンパクトカー(スズキ・スイフト)1台を5月18日に寄贈しました。

慶應義塾大学では、今回寄贈されたコンパクトカーをベースに鉛電池を活用し、安価で航続距離※を高めた電気自動車の実用化に向けて研究を進めます。まず11月につくばで開催される電気自動車レース「第15回日本EVフェスティバル」への参加を目指します。

※航続距離とは 一回の充電で走行可能な距離

【プロジェクト発足の経緯と目的】

慶應義塾大学では、1997年から電気自動車の研究を始めており、2004年には高加速・高性能を実現した次世代型乗用車「Eliica(エリーカ)」を開発しました。現在、電気自動車の実用化に向けて更なる研究を進めています。

一方、ガリバーは中古車ビジネスの適正化とともに自動車の流通改革を目指し、1994年に創業しました。年間約60万人のユーザーと接点があり、市場のニーズや自動車流通のノウハウを今後の研究開発に役立てたいと考えています。今回はプロジェクトの第一弾として研究用に車両を寄贈し、今後はバスなどを活用した研究も視野に入れていきます。



左: 寄贈した「スイフト」 右: 次世代型乗用車「エリーカ」
前列左から2番目が羽鳥、右隣が清水教授

【慶應義塾大学 学生代表コメント】

今回寄贈していただいた車をもとに、時代を変え、社会に貢献できるような車を作りたいです。秋に開催されるレースで出走できるよう完成を目指して研究に励みたいと思います。

【慶應義塾大学 清水浩教授コメント】

魅力的な車を作るためには、加速感、乗り心地、空間の広さを達成する必要があり、さらに環境に優しい車を実現しようとする、電気自動車の実用化は不可欠です。開発のために市場のニーズを捉えているガリバーと協力することで、電気自動車の実用化に近づけると考えています。

【株式会社ガリバーインターナショナル 代表取締役会長 羽鳥兼市コメント】

学生が主体となって完成されたエリーカを試運転させていただき、電気自動車の進化に感銘しました。近い将来は電気自動車主流になり、時代は確実に変わります。そんな電気自動車の研究開発に日夜努力をされている皆さんを少しでも支援していけたらと思っております。これからもぜひ、夢のある自動車を作っていくてください。